

一昨年(平成30年(2018))は明治元年(1868)から150年の節目の年にあたり、「明治150年」と称したイベントが各地で行われたのは記憶に新しいところです。一方で本年は第二次世界大戦の終結から75年にあたります。近代部会は、明治維新から大戦終結までの77年間(明治元年～昭和20年)を担当します。

明治時代を通じての立川地域の主要産業は養蚕・織物・鮎漁などでした。明治22年(1889)、甲武鉄道(現JR中央線)の開通とともに立川は商業の拠点となり、大正11年(1922)、立川村北方に立川飛行場が開設、空都・軍都として発展しました。しかし、中国・アメリカ・イギリスなどとの全面戦争に突入すると、昭和20年(1945)に軍事関連施設などが空襲を受けて多くの人命と施設が失われました。



現在の立川市は昭和38年に立川市と砂川町が合併して成立しました。それまでは砂川・立川の2自治体が市町村の運営にあたり、それぞれ合併や町制施行などを繰り返してきました。両者は、江戸時代の寄場組合や明治初期の区画ではその所属を別にしていましたが、立川駅の設置や立川飛行場の開設によって関わりが深まってきました。

近代の立川地域の足跡がたどれる資料＝「まちの記録」は多岐にわたります。ここではそのうちの、村役場・町役場・市役所で作成・保管された行政文書について紹介します。

飛行第五聯隊(飛行第五大隊を改称)開隊記念日の聯隊正門前  
昭和初期  
立川市歴史民俗資料館蔵



飛行第五聯隊全景  
昭和初期  
立川市歴史民俗資料館蔵



立川町仲町通り(現、北口大通り)  
昭和7年(1932)頃  
立川市歴史民俗資料館蔵



管轄のうつりかわり

年代	立川	砂川
慶応4年(1868)6月	葦山県設置	
	葦山県の所管	葦山県の所管
明治4年(1871)12月	廃藩置県後の第1次府県統合	
	神奈川県の所管	神奈川県の所管
明治6年(1873)4月	神奈川県区画改正	
	神奈川県第12区5番組柴崎村	神奈川県第12区3番組 砂川村・殿ヶ谷新田ほか
明治7年(1874)6月	大区小区制	
	神奈川県第12大区4小区柴崎村	神奈川県第12大区3小区 砂川村・殿ヶ谷新田ほか
明治11年(1878)11月	郡区町村編制法、郡町村制復活、多摩郡を西・南・北に分割	
	神奈川県北多摩郡柴崎村	神奈川県北多摩郡 砂川村・殿ヶ谷新田ほか
		<div>明治12年(1879)12月</div> <div>砂川村、芋久保新田・殿ヶ谷新田・宮沢新田・中里新田・平沢新田の5か村を合併</div>
		神奈川県北多摩郡砂川村
明治14年(1881)3月	柴崎村、村名改称	
	神奈川県北多摩郡立川村	
明治17年(1884)7月	区町村会法改正	
	神奈川県北多摩郡 中神村外九ヶ村組合立川村	神奈川県北多摩郡砂川村
明治22年(1889)4月	市制町村制施行 立川村は中神村外九ヶ村組合より分離、砂川村は立川村飛地などを併合	
	神奈川県北多摩郡立川村	神奈川県北多摩郡砂川村
明治26年(1893)	三多摩、東京府移管	
	東京府北多摩郡立川村	東京府北多摩郡砂川村
大正12年(1923)12月	立川村、町制施行	
	東京府北多摩郡立川町	
昭和15年(1940)12月	立川町、市制施行	
	東京府立川市	
昭和18年(1943)7月	東京都制施行	
	東京都立川市	東京都北多摩郡砂川村
		<div>昭和29年(1954)6月</div> <div>砂川村、町制施行</div>
		東京都北多摩郡砂川町
昭和38年(1963)5月	立川市・砂川町、合併	
	東京都立川市	

地域のできごと

明治3年(1870)

玉川上水の通船事業が行われ、砂川村・宮沢新田などが参加

明治3年(1870)

柴崎村に郷学校（のち柴崎学校、現第一小学校）開校

明治5年(1872)

砂川村に私塾と共同学舎（のち合併して砂川尋常高等小学校、現第八小学校）開校

明治9年(1876)

西砂川学校（現第九小学校）の独立校舎建設

明治22年(1889)

甲武鉄道（新宿―立川）開通、立川駅開業  
 砂川村側の線路の北側に駅が開設、南口の開設は昭和5年。甲武鉄道は現JR中央本線

明治27(1894)

青梅鉄道（立川―青梅）開通

明治34(1901)

府立第二中学校（現都立立川高等学校）開校

大正11年(1922)

立川飛行場が開設、陸軍飛行第五大隊移転  
 民間航空の拠点でもあり、外国人飛行家の来訪が相次いだ。昭和8年に民間航空は羽田へ移転

大正14年(1925)

立川高等女学校（現立川女子高等学校）開校

昭和4年(1929)

南武鉄道（分倍河原―立川）開通

昭和15年(1940)

立川陸軍航空工廠設置

昭和20年(1945)

米軍機が立川市・砂川村を爆撃、犠牲者346名  
 立川飛行場・立川陸軍航空工廠・立川飛行機会社・日立航空機立川発動機製作所などを目標とした空襲

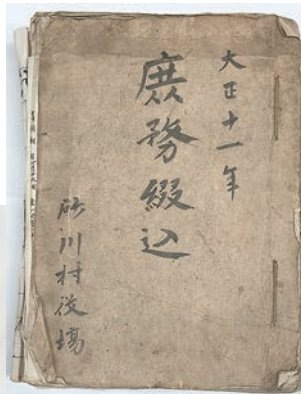
## ●立川地域の行政文書

近代部会は2冊の資料編を刊行します。大正11年（1922）の立川飛行場開設前後を画期とし、前半を『資料編近代1』（令和4年度）、後半を『資料編近代2』（令和2年度）で扱います。

「近代」を描くために中核となる行政文書は、立川市歴史民俗資料館所蔵の旧砂川村役場文書・旧立川市役所文書や、立川市文書庫保管の永年保存文書です。これらの文書群を合わせてみることで、立川や砂川の自治体としての足跡をたどり、当時の社会状況を明らかにすることができます。紹介した略図は砂川村・立川村の行政文書の中の、役場位置変更申請に添付されたものです。砂川村は「事務室其他採光悪敷」、立川村は「暗黒ニシテ事務取扱上不便」と、両役場とも移転理由の一つに事務上の不便をあげ、役場環境がうかがえることが注目されます。

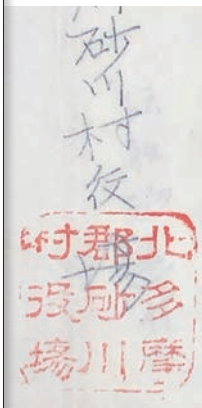
行政文書が残されていることで、当時の自治体の課題やそれへの対応がわかります。また、過去に行政が行ってきた判断や実績を検証することによって、現在の業務に活かすことができるのです。

砂川村役場位置変更申請に添付された砂川村略図（大正14年2月）  
立川市歴史民俗資料館蔵 旧立川市役所文書



旧砂川村役場文書  
立川市歴史民俗資料館蔵

砂川村役場印（大正11年）  
立川市歴史民俗資料館蔵  
旧砂川村役場文書



## 旧砂川村役場文書

砂川町・立川市合併後に旧砂川村役場庁舎内に残され、一時保管を経て、昭和60年に立川市歴史民俗資料館が開館するとそこに移管された文書群です。

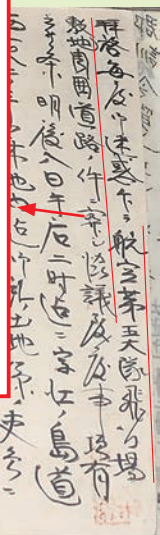
明治4年の葦山県所管時代や明治11年の砂川村戸長役場時代の文書も一部が引き継がれています。

## 永年保存文書

子ども未来センター内の立川市文書庫で管理されている文書群です。明治22年以降の立川村会議録や明治29年以降の砂川村会議録などがあります。

## 砂川の行政文書

航空第五大隊飛行場敷地周囲道路ノ件ニ関シ協議



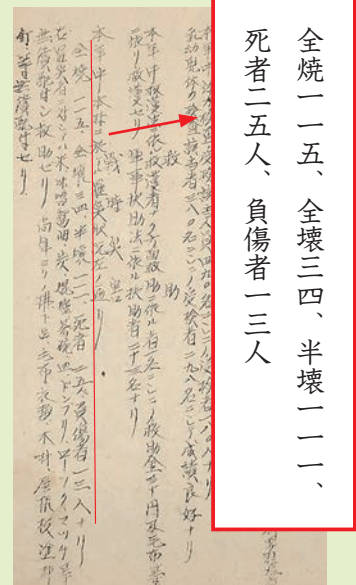
「大正十一年 庶務綴込 砂川村役場」  
立川市歴史民俗資料館蔵 旧砂川村役場文書

立川飛行場建設にともなう村道の付け替え（大正11年）

「大正十一年 庶務綴込 砂川村役場」に、立川飛行場建設に関わる記載がみられます。近衛師団経理部からの照会や、立川村からの協議のよびかけなどがまとめられています。砂川村・立川村の村道が「航空第五大隊飛行場」すなわち立川飛行場の敷地にかかるため、付け替えが行われることとなりました。

砂川村の空襲被害（昭和20年）

「昭和二十年砂川村事務報告」に空襲被害の記載がみられます。「厚生一戦時災害」の項に、村民の被害として、死者25人、負傷者13人、全焼115、全壊34、半壊111とあります。また、「学事」の項目には、4月24日の空襲で砂川国民学校が、8月2日の空襲では西砂川国民学校分校が罹災全焼したと記されています。



「昭和二十年砂川村事務報告」  
立川市蔵 中野家文書



## 旧立川市役所文書

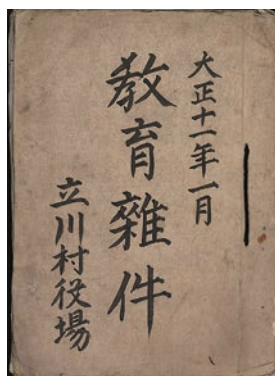
(立川市歴史民俗資料館所蔵分)

旧砂川村役場文書と同時期に整理されていたと思われる文書群です。文書の上限は明治10年で、日露戦争の「動員日誌」や教育・庶務関係の文書があり、旧『立川市史』に文書が引用されています。

## 旧立川市役所文書

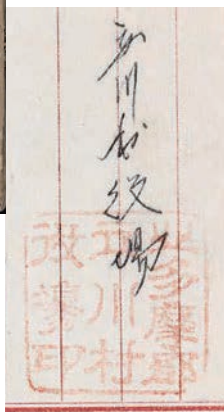
(立川市総務課移管分)

平成23年度に総務課から立川市歴史民俗資料館へ移管された文書群です。明治32年以降に旧砂川村役場が作成した文書も含まれています。



旧立川市役所文書  
立川市歴史民俗資料館蔵

立川村役場印 (大正11年)  
立川市歴史民俗資料館蔵  
旧立川市役所文書



## ●市民の持つ記録と記憶

立川市の歴史を描くために必要な資料は、立川市の行政文書だけではなく、国や都の機関で作成・保存された公文書や、民間の団体や個人で作成・保存された資料、立川地域に関わる新聞や雑誌の記事など多岐にわたります。町村制の「村」になる以前の、明治初期における戸長役場文書は、大部分が戸長をつとめた家に残されています。

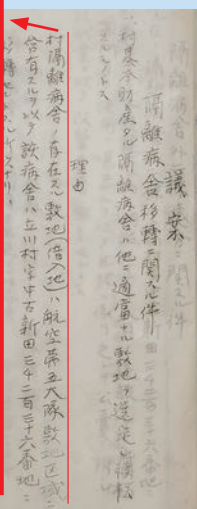
また、町村制以降の自治体の行政文書は、作成・受領したもの全てがそれぞれの役場に残されるわけではありません。作成は役場の判断であり、その後不要なものは廃棄されます。一方で住民の側には役場の通達が残されたり、議員をつとめた家に議案とそれに関連する資料などが保存されていることがあります。

以上のような立川地域に関わる資料を内外から広く集め、資料編を編集します。これらは通史編や近代テーマ編の刊行にむけての基本資料となるものです。近代の立川地域は「交通のまち」「基地のまち」など様々な姿を見せますが、多角的な資料によってその変化を明らかにしていきたいと考えています。(高野)

立川村役場位置変更申請に添付された  
立川村略図 (大正2年1月)  
立川市歴史民俗資料館蔵 旧立川市役所文書

## 立川の行政文書

村隔離病舎ノ存在スル敷地 (借入地) ハ  
航空第五大隊敷地区域



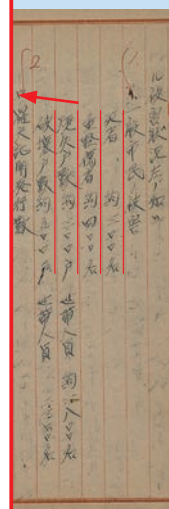
立川飛行場建設にともなう  
隔離病舎の移転 (大正11年)

「大正十一年一月 村会議録議案及決議 立川村役場」に、立川飛行場建設に関わる記載がみられます。伝染病隔離病舎は、感染防止のため各市町村に設けられ、立川村・砂川村では明治30年代に建設されました。立川村の隔離病舎が「航空第五大隊敷地区域」すなわち立川飛行場の敷地にかかるため、移転することになりました。

立川市の空襲被害  
(昭和20年)

「昭和二十年立川市事務報告」に空襲被害の記載がみられます。「災害防衛事務」の項に、市民の被害として、死者約300名、重軽傷者約400名、焼失戸数約300戸、破壊戸数約500戸とあります。また、8月2日の空襲で市役所本館に爆撃を受けたものの、市役所防衛本部員などによる消火活動で焼失を免れたことが記されています。

死者 約三〇〇名 重軽傷者約四〇〇名  
焼失戸数約三〇〇戸 破壊戸数約五〇〇戸



「大正十一年一月 村会議録議案及決議 立川村役場」  
立川市蔵 永年保存文書

「昭和二十年立川市事務報告」  
立川市歴史民俗資料館蔵 旧立川市役所文書